

第6学年1組 社会科学学習指導案

児童数 22名
指導者 米林 英明

1 単元名 明治の国づくりを進めた人々

2 単元について

- 本単元では、「黒船の来航、明治維新、文明開化と時代が変化し、明治政府が廃藩置県や四民平等、大日本帝国憲法の発布等の諸改革を行ったことを通して、我が国が欧米の文化を取り入れつつ近代化を進めたことが分かるとともに、それらに関わる人物の願いや働き、文化遺産の意味を考えようとする事」「江戸と明治の日本橋や学校の様子の変化等から学習問題を見だし、資料を活用して調べたことをまとめるとともに、明治という新しい時代になって人々の生活が変化したことや、近代化を進めるために様々な諸改革を行った代表的な人物の働きや文化遺産の意味について思考・判断したことを適切に表現すること」をねらいとしている。
- 本学級の子供たちは、歴史上の出来事の意味や人物のエピソードについて関心をもって学習に取り組む様子が見られる。その一方で、資料から適切な情報を読み取ったり、読み取ったことを基に自ら課題をつくったりする力が不十分な子供が多い。本単元では、資料の提示の仕方やワークシートを工夫し、社会的な見方・考え方を働かせて歴史的な事象を見る力を伸ばしたい。

3 本時の学習 (3/8時)

(1) ねらい

開国後の社会の混乱や幕府への不満と関連付けて、若い武士たちの新しい国づくりに込めた願いや思いについて考える。

(2) 展開

学習過程	学 習 活 動	時配	指導上の留意点と評価<評鑑>の観点<(方法)> アンダーラインは研修主題との関連(視点) 特別な配慮を要する子供への支援 ☆	資料等
見通しをもつ	1 黒船来航の資料を見て、気付いたことを話し合う。 ・日本の船よりずいぶん大きい。 ・みんなとてもあわてている。 ・何をしに来たのだろう。 ・恐れて開国したのではないか。	10	・船の大きさの違いや絵から読み取れる人々の様子等に注目させる。 ・幕府の対応や若い武士たちの考えたことを予想し本時の目当てをもたせる。	黒船来航の絵図
	若い武士たちは、どのような国を目指すべきだと考えたのだろう。			
自分の考えをもつ・学び合う	2 開国後の社会の様子について調べ、話し合う。 ・条約を結んで開国をした。 ・貿易が始まって人々の生活が苦しくなった。 ・なぜ、生活が苦しくなるのだろう。 ・幕府への不満が高まった。 3 若い武士たちの願いや思いについて考え、話し合う。 ・外国と対等に付き合える国。 ・幕府よりも強い政府が必要。 ・協力して幕府を倒し、新しい政府をつくらなければならない。	15 15	・年表に出来事を書き込み、調べる視点をつかむことができるようにする。(視点1) ・条約が不平等なものであることに気付かせる。 ・物価、戦争に関する資料を提示し、国内、外国との関係の2面から考えることができるようにする。(視点1) ☆グラフの読み取りが苦手な児童には、タイトル、縦軸の単位や変動幅に着目させる。 ・資料から読み取ったことと関連付けられるように、問い返しや助言をする。	年表ワークシート 物価上昇グラフ 薩英戦争下関砲台
振り返る	4 本時を振り返る。 ・大久保、西郷、木戸を始めとする若い武士たちは、外国に負けない政府をつくらなければならないという強い願いをもった。	5	開国後の社会の混乱や幕府への不満と関連付けて、若い武士たちの新しい国づくりに込めた願いや思いについて考えている。 <思考・判断・表現> (発言・ノート)	

(3) 視点

資料の提示の仕方やワークシートの工夫は、明治維新を進めた人々の願いや思いを考えることに効果的であったか。

4 板書計画

若い武士たちは、どのような国を目指すべきだと考えたのだろう。

(黒船来航の絵図)

(年表)

(物価グラフ)

- 日本の船よりかなり大きい
- 大騒ぎになっている
- あわてている

若い武士たち

- 日本を守ろう
- どうしたらいい

開国

- 日米和親条約
- 日米修好通商条約
- 物価が上がって生活が苦しくなった
- 幕府の力が弱くなった

(薩英戦争・下関砲台の写真)

- 外国との力の差に気付いた。
- 武力では勝てない

外国に負けない強い国をつくらなければならない。

大久保利通 西郷隆盛
木戸孝允

5 学力の見える化 (本時のルーブリック表 (具体的な評価基準))

S	A	B	C
資料を根拠に、条約、経済、戦争等複数の面から社会の状況を捉え、当時の人々が思い描いた国の未来像を考えている。	資料を根拠に、社会の状況を捉え、当時の人々が思い描いた国の未来像を考えている。	開国後の社会の混乱や幕府への不満を関連付けて目指す国の姿を考えている。	当時の人々が目指した国の姿を考えている。